

# U.S. Indicators

発表日: 2020年12月18日(金)

## 米国 感染深刻化で労働市場の改善足踏み(失業保険)

～新型コロナウイルスの感染拡大に歯止めがかからず経済活動への悪影響が強まる～

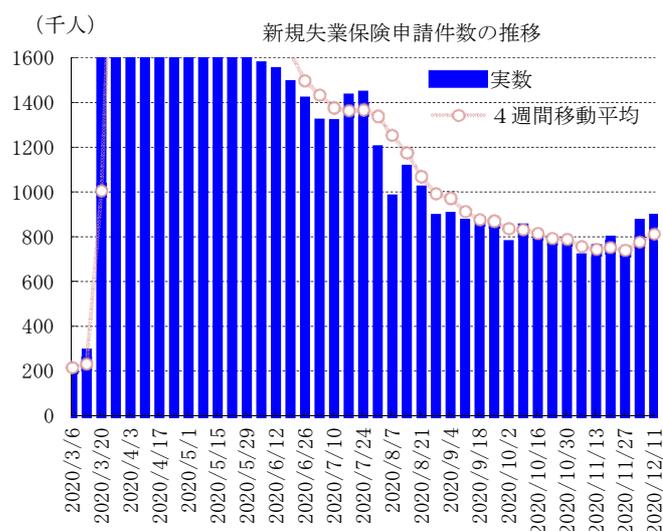
第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部  
主任エコノミスト 桂畑 誠治(Tel:03-5221-5001)

12月12日までの1週間の米新規失業保険申請件数(州、季節調整済み)は、88.5万件(前週86.2万件)と市場予想中央値(ブルームバーグ集計)の81.8万件への減少に反して前週比2.3万件増加した。一時的な要因の影響を小さくする4週移動平均(季節調整済み)は81万2,500件と前週比3万4,250件増加した。ただし、新型コロナウイルスの感染者数、死者数が過去最多を更新する深刻な状況のなか、行動制限の強化が行われており、申請件数の増加に驚きはしない。むしろ、改善予想のコンセンサスに驚きを禁じ得ない。

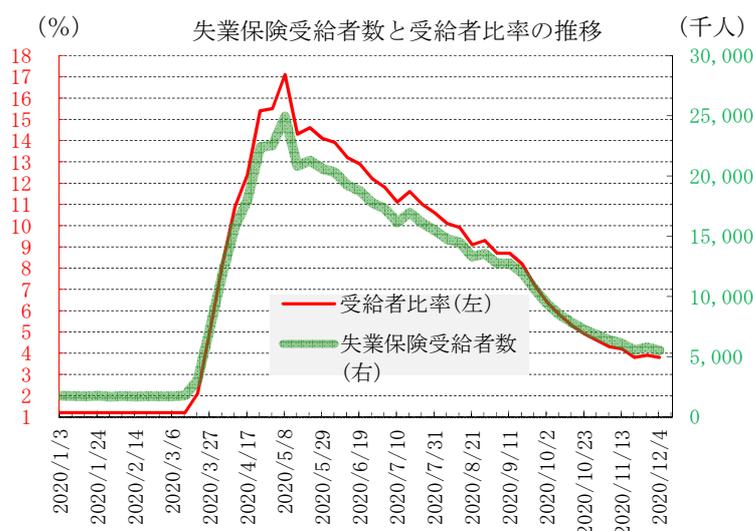
また、12月の雇用統計調査週(12月6日～12日)の1週間の新規失業保険申請件数が11月の雇用統計調査週の74.8万件よりも増加していることから、12月の雇用統計では労働市場の改善が足踏みしていることが確認されよう。

12月5日までの1週間の失業保険継続受給者数(新規失業保険申請件数より公表が1週間遅い)は550.8万件(前週比▲27.3万件)と11月雇用統計調査週より▲58.1万件と小幅の減少となり、同週の失業保険受給者比率が3.8%(前週3.9%)と11月の雇用統計調査週の4.2%から僅かの低下にとどまっている。この状況に翌週も変化がみられなければ、12月の失業率は小幅の低下にとどまろう。ただし、失業保険継続受給者の減少は、失業期間の長期化によって、州の失業保険給付期間の終了した人が連邦政府のパンデミック緊急失業補償(PEUC)に移行したことがある程度影響している。PEUCの受給者数は、公表が遅く11月28日までの1週間の数値で前週比26万8,532件増の480万1,408件だった。これを含む11月28日までの週のすべての失業保険プログラムによる受給者数は、2,064万6,779件と前週比160万3,281件増加しており、労働市場の改善は11月下旬ごろから足踏みしていると考えられる。

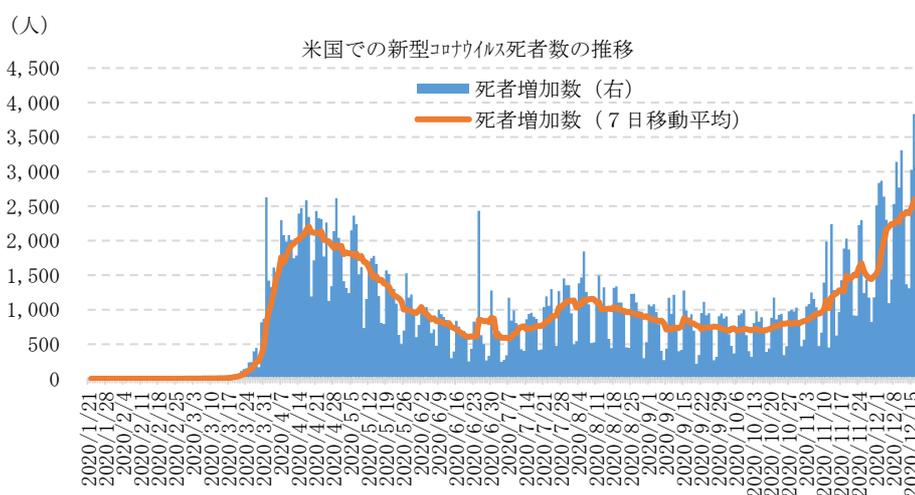
米国では総失業者の減少に歯止めがかかるなど労働市場の改善が足踏みしている。新型コロナウイルスの感染者数・死者数の拡大ペースが高い伸びを続けているなか、地域ごとに程度の差はあるがソーシャルディスタンに配慮した規制の継続や強化が行われている。加えて、企業がリストラを進めているため、失業保険継続受給者数、失業保険受給者比率ともにコロナ危機前と比較すると高い水準にとどまっており、労働市場がコロナ危機前の水準を回復するにはかなりの時間が必要との見方は変わらない。



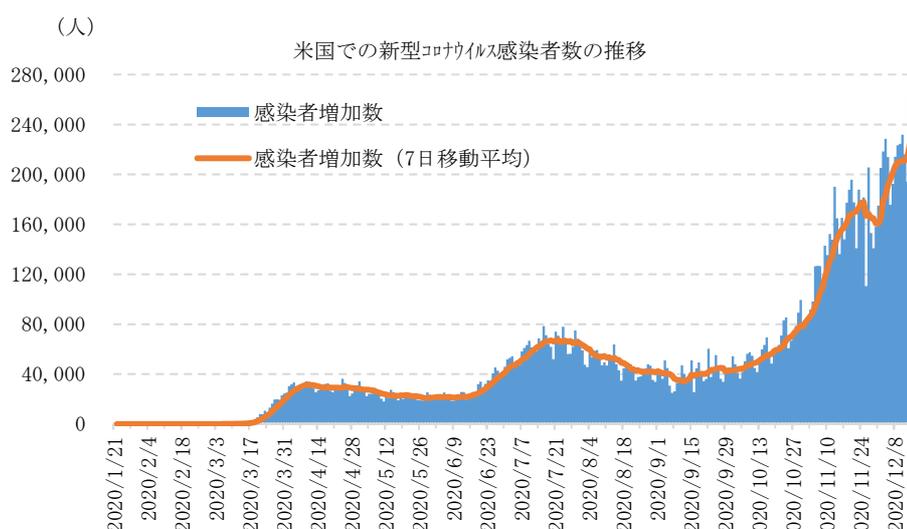
(出所)米労働省



(出所)米労働省



(出所)CDC等



(出所)CDC等

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

